

## 十全大會前後における孔子批判論文目録

著者	越川 恵子, 濱田 富士雄
著者別名	KOSIKAWA Keiko, HAMAGUTI Huzio
雑誌名	漢文學會々報
巻	33
ページ	31-37
発行年	1974-06-22
URL	<a href="http://doi.org/10.15068/00149238">http://doi.org/10.15068/00149238</a>

# 十全大會前後における孔子批判論文目録

越 川 惠 子

濱 口 富 士 雄

一九七三年八月、十全大會（中國共產黨第十回全國代表大會）が開催された。その前後にあって、孔子に對する批判論文が、紅旗・人民日報・光明日報等に相ついで發表された。

我々は、この孔子批判において展開されている諸方面に對する分析の在り方、検討の内的論理に關心をもち、それを追求することにし、資料の輯集及び論文類の讀み合せを行なつてきた。そして、さらに今後は、一九五〇年代に行なわれた孔子思想に關する一連の討論及び、一九六二年に刊行された『孔子哲學討論集』等にも目を向け、今回の孔子批判の動向における行論の變遷を通し、現代中國の思想・哲學の流れなどを把握してゆきたいと考える。そこで、今後の研究を進める上での一應の目安として、一九七二年八月より、一九七四年一月までの分を以て論文目録を作成することにした。

さて、まず今回の孔子批判に關連する諸論文の全體的な鳥瞰を試みる。

これらの論文においては、唯物史觀の立場に立つた古代社會發展史に對する一つの認識が背景となつてゐる。すなわち、郭沫若は三度にわたる自説の變轉をへることで、『中國古代史の分期問題』（紅旗・一九七二年第七期）において、土地所有制に着眼して地主階級の抬頭を指針に社會の發展を分析し、春秋戰國の交に奴隸制から封建制への生産様式の推移に歴史の發展を見るのである。ここにおいて、歴史的評價、すなわち、歴史の齒車を前に進めるか、それを逆轉させるかという事象に對する批判の基點が確立された。

さらに、これが、社會の發展のイデオロギー領域へ反映して思想となり、二つの階級・二つの路線の闘争がとりあげられることになる。すなわち楊榮國『春秋戰國時期思想

領域内兩條路線鬭争——從儒法論争看春秋戰國時期的社會變革——』をはじめとして、儒家と法家の二大潮流が注目され、社會制度の變革時期における激烈な二つの路線鬭争の實際、つまり、歴史を逆轉させようとする儒家の反動性とその復活への志向、及び歴史の必然的な發展を推進しようとする法家の進歩性と復古に反對する二つの立場が明示された。

ここにおいて、孔子の諸思想とその行動は歴史の發展の必然的な動きにおいて、それに逆流し奴隸制を擁護維持しようとする反動的な立場にあったとして批判されることになった。他方、封建制を押し進める上で積極的な作用を及ぼしたとして秦始皇は、その進歩性が肯定的に評價されることになった。

今回の孔子に對する批判は、その思想だけにとどまらず、孔子自身の行動に及び廣範な角度から検討されているが、その主要な論點を以下にかいつまんで述べておく。

孔子の思想の核心となる仁は、本來、殷周奴隸主階級が、彼らの内部結束と支配力とを強化するためのイデオロギーであった。この仁に對し、その根本は、孝・悌であることを明らかにすることにより、没落しつつある奴隸主貴族らの相互的争奪戦からくる崩壞を救おうとした。すなわ

ち、孝は祖先父母の縦の面から、悌は同輩兄弟の横の面から縦横に結束させるのに役立つのである。また、忠・恕も仁の内容であり、奴隸が奴隸主に忠誠を盡くし、また各階級の上位者への忠誠とされるが、その目的は各級奴隸主の支配關係を強固にすることであった。恕も奴隸に對し寛容であれと言うのではなく、同じ階級に屬しながら没落してしまつた奴隸主貴族に寛容を示し内的結束を計ることを意圖しているのである。さらに、正名を首唱したが、これも舊秩序を復活して、奴隸主階級の主觀的觀念で變革しつつある社會を規制してゆこうとした。孔子が説いた徳政や仁愛も、超階級に行われたものではなく、奴隸主内部にのみ限定されていた。要するに孔子の思想はすべて歴史上没落しつつあつた奴隸主貴族階級に奉仕するものであると規定している。

孔子の教育思想もすべ反動的没落貴族の立場で貫らぬかれたとされる。すなわち、從來、階級區分を打破し、全民教育を施した根據とされる「有教無類」（論語・衛靈公）を取り上げ、次のように論ずる。論語では「人」と「民」とが嚴然と區別され、「人」が奴隸以外の階層の人を指すのに對し、「民」は奴隸を指している。これに對應して「教」と「誨」も區別され、「誨」の對象は「人」であり奴隸以外

の階層の學生に周禮を主とする典禮制度を教育し、奴隸主貴族の下僕を養成しようとした。これに對し「教」は奴隸が對象となり、強制的に軍事訓練と思想注入とを施すことであつたとする。そして「有教無類」の有とは圍、域と通用し、類とは階級區分でなく氏族の區分を意味するとして、この句の意義は、春秋末期になると氏族が入り亂れるようになつたため、各氏族に屬する奴隸を氏族ごとで分けることが不可能となつたため地域を按配して奴隸を教練することになつたといふのである。すなわち、その教育活動も西周奴隸制を復活する反動政治に奉仕するものであつたとしている。

中庸の道も孔子によつて提出されたものとし、奴隸制の規範である周禮を標準として、その舊い體系から一定の限度を越える「過」や、及ばない「不及」の場合には、無條件にそれに反對する立場であるとする。すなわち、その實質は舊い奴隸制の等級制度を擁護し、それらを神聖化して、社會の變革前進を否定し、保守、復活を主張するものであるとする。

續いて孔子の行動面について見てゆくが、最も注目されている事件は、少正卯殺害である。この事件は『荀子』に最も早く載せられたもので、孔子が魯の司寇職につくと間

もなく、少正卯を種々の罪狀から殺害したことを言う。没落奴隸主貴族の思想家孔子は頑迷に奴隸主階級の立場に立ち新興封建勢力のいかなる改革にも反對した。このため魯國にあって、法家的立場から、禮治から法治へ、すなわち奴隸主専政から地主階級専政を求める政治主張を行い、當時の商工業者の利益を代表した少正卯を革新派への見せしめとして殺したのである、と分析している。この事件は春秋戰國期の儒法鬭争の序幕として位置づけられ、春秋末期の奴隸主階級と新興地主階級との間における重大な階級鬭争・路線鬭争の反映であるとしている。

『春秋』は魯國の歴史書であつたが、孔子はその編纂を利用して、「君君、臣臣、父父、子子」の奴隸制秩序を擁護し、世論の上から奴隸主階級の反革命専政を強化し、革命勢力が奴隸制度を破壊するのに極力反對した。その主な方法は、「爲尊者諱」「爲親者諱」「爲賢者諱」といふ諱という手法である。尊とは奴隸主階級の總代表、親とはその家族、賢とは奴隸制維持に功のある人物であると分析し、彼らのために事實を忌諱して歴史を歪曲し、さらに褒や貶の評価を用いて反革命的奴隸制を守り強化しようとした。この『春秋』の基本觀點は復古を讚美し、革新に反對することであり、それは、新興地主階級が進めていた改革に反

對し、奴隸支配時代の「先王」の舊秩序を回復させることにあつたとする。

以上見て來た以外にも多岐にわたつて孔子の思想及び行動に對する分析が行なわれているが、究極的には、歴史の必然的な趨勢、すなわち奴隸制から封建制へ轉化する時期に、没落奴隸主貴族の立場に立つて奴隸制を擁護し、復活させようとして、歴史の進展を阻止し逆らおうとする反動的思想に終始したことが批判の原點となつてゐる。

一方、秦始皇に對する論點は次のようになっていよう。郡縣制推進を行なつていた中央集權派を代表した秦始皇は、復古の立場に立つ分封派の舊勢力による權力奪還の策謀に對して、焚書坑儒の打撃を與えたが、それは決して文化や學者を全滅させようとしたものではなく、没落奴隸主貴族階級の復活を粉砕する進歩的な性格を有し、當時において完全に必要な措置であり、また歴史の流れを前進させる積極的な意味をも持つており、しかも、封建制度が二千年も繼續する礎となつた歴史的な作用及び効果は肯定されるべきであるとしてゐる。また秦の短期間における滅亡は、從來指摘された如く、焚書坑儒を始めとする施政にあるのではなく、上部構造における對舊勢力との矛盾とは別に、封建支配者と廣汎な人民との間の矛盾の激化の結果に

由來するもので、陳勝・吳廣らの農民革命によつて覆えられたのであると分析し、焚書坑儒との因果關係を否定してゐる。すなわち、始皇の「暴政」といわれてきたものも、二つの路線における進歩的立場からなされた措置であり、歴史の趨勢に適つていたところから、肯定的な評價が與えられることになつたようである。

以下、論文目錄を示す。

(大學院修士課程)

十全大会前後にみる孔子批判論文目録

1974. 1.31 現在

年月	红 旗	人 民 日 报	光 明 日 报	そ の 他
72. 7月	中国古代史的分期 问题(郭沫若:第 7期)			1972.5「秦始皇」 洪世溱(上海人 民出版社)
12月	春秋战国时期思想 领域内 两条路线的斗争 一从儒法论争看春 秋战国时期的社会 变革(杨荣国:第 12期)			1972.5「陈胜,吴 广」洪世溱(上 海人民出版社) 1973.5「奴隶制时 代」(2版)郭沫 若(人民出版社) 1973.5「中国古代 两种论识论的斗 争」潘富恩·甌 群(上海人民出 版社)
73. 8月		孔子一顽固地维护 奴隶制的思想家 (杨荣国:8.7) 付资料“三分公室” 和“四分公室”孔 子杀少正卯 两汉时代唯物论反 对唯心论先验的斗 争(杨荣国:8.13)		1973.6「中国古代 思想史」(2版) 杨荣国(人民出 版社) 1973.7「简明中国 哲学史」杨荣国 他(人民出版社)
9月		孔子是“全民教育 家”吗?(唐晓文: 9.27) 驳孔子和学”“首创 说(汤啸:9.27) “焚书坑儒”辨(施 丁:9.28)	学习·鲁迅反尊孔 斗争的历史经验 (北京大学 哲军: 9.11) 孔子是顺于时代潮 流的“先驱者”吗 ?(施德福·陈占安 :9.22) 孔子思想是历代反 动阶级奴役人民的 精神枷锁(吉林大 学 栗众:9.22) 付资料“三纲五常” 的由来	「关于孔子诛少正 卯问题」赵纪彬 (人民出版社) 明《城阙里记》碑文 反映的起义农民 对孔教的蔑弃 (包遵信《文物》第 9期)
10月	论尊儒反法	[10.25 论尊儒反	论孔子杀少正卯	「孔子一顽固地维

	(石仑：第10期)	法) 秦始皇是坚决打击 奴隶主复辟的政治 家(陕西师范大学 写作组：10.31) 是“圣人”还是“伪 君子”?(翁俊雄： 10.31)	(高亨：10.31)	护奴隶制的思想 家」杨荣国(香港 三联书店) 从乙瑛,韩敕,史晨 三碑看东汉统治者 尊孔的反动实质 (仪真《文物》10 期)
11月	右倾机会主义和孔 子思想(劲云戈： 第11期) 秦王朝建立过程中 复辟与反复辟的斗 争 一兼论儒法论争的 社会基础(罗思鼎： 第11期)			秦始皇“书同文字” 的历史作用(北文 《文物》11期) 「王充—古代的战 斗唯物论者」田昌 五(人民出版社) 「商鞅变法」杨宽 (上海人民出版社)
12月	[孔子“是全民教育 家”吗?](唐晓文： 第12期) 林彪为什么咒骂秦 始皇?(华中师范 学院史系学员 陈 阳风·李子林·梅 债：第12期) 把批孔和批林结合 起来(天津市电磁 线厂工人评论组： 第12期)	一百多年来反孔和 尊孔的斗争(北京 大学·清华大学 大 批判组：12.7) 彻底批判孔孟的 「天才论」(武汉大 学·哲学系工农兵 学员,牛佑先：12. 10) “生而知”之是奴隶 主的哲学(解放军· 某部队排长,马正 宏：12.10) 工人阶级就要“侮 圣人之言”(北京冷 冻机厂党委书记 田克：12.10) 批判孔子的读书做 官的谬论(北京大 学 哲学系学员 冯 春祥：12.10) 两副调门一路货色 (解放军某部战士 王凤举：12.10)	对于孔子的批判和 对于我过去的尊孔 思想的自我批判 (冯友兰：12.3) 复古兴友复古是两 条线的斗争(冯友 兰：12.4) 孔子维护哪些奴隶 制(北京师范大学 高亨：12.13) 近代中国反孔和尊 孔的几次斗争(钟 晋矢：12.31)	「论尊儒反法」景 池等(香港三联书 店) 秦始皇统一度量衡 和文字的历史功绩 (俞伟超·高明《文 物》第12期) 秦始皇二十六年诏 书及其大字诏版 (史树青·许青松 《文物》第12期) 学习鲁迅,彻底批 孔(周建人《文物》 第12期) 「反动阶级“圣人” —孔子」(杨荣国： 人民出版社)

<p>74. 1月</p>	<p>孔子是怎样利用编纂历史维护奴隶制度的？(牛致功：第1期) 孔夫子在莫斯科(康立：“) ) 历史上劳动人民的反孔斗争(田凯：“)</p>	<p>孔子杀少正卯说明了什么？(唐晓文：1.4) 「仁人」吃人(解放军某部 介之：1.4) [1.9 历史上劳动人民的反孔斗争] 孔子的中庸之道是反对社会变革的哲学(北京大学 哲军：1.13) 鲁迅一深刻批判“孔家店”的伟大战士(林志浩：1.19) 略论秦始皇的暴力(北京大学·清华大学 大批判组：1.21) 今胜于昔(肖班：1.21) 孔老二的亡灵和新沙皇的迷梦—评苏修尊孔反法的卑劣表演(北京大学·清华大学 大批判组：1.24) 孔子是怎样利用教育进行反革命复辟活动的？(北京大学·清华大学 大批判组：1.26) 孔孟之道是束缚和奴役妇女的绳索(青阜文：1.27) 林彪再三挥舞“克己复礼”黑旗居心何在？(北京大学·清华大学 大批判组：1.29) 太平天国农民革命的反孔斗争(北京师范大学 朱斌：1.29)</p>	<p>孔孟之道和林彪的反革命政治(汤啸：1.9) [1.10 历史上劳动人民的反孔斗争] [1.17 孔子的中庸之道是反对社会变革的哲学] [1.25 孔老二的亡灵和新沙皇的迷梦] 孔子一反动的奴隶主阶级的教育家(陈西师范大学·刘文义：1.26)</p>	<p>「批林批孔文章汇编」(一)(二)(人民出版社) 「鲁迅批判孔孟之道的言论摘录」(中央党校编写组：人民出版社) 「五四以来反动派，地主资产阶级学者尊孔复古言论辑录」(人民出版社)</p>
-------------------	--	---	---	---

◎ 注〔 〕は重複論文 「 』は書名